

ホームヘルパー講座2級課程 シラバス

I 講義 58時間 (通信)			
科目	教科名	目的	学習内容
社会福祉の基本的な理念及び福祉サービスを提供する際の基本的な考え方に関する講義 (6時間)	福祉理念とケアサービスの意義 (3時間)	社会福祉の基本的な理念について理解する ケアサービスの意義について把握し、チームケアの必要性を理解する。	QOLの向上、ノーマライゼーション等の各福祉分野に共通する主流理念 ケアサービスの意義 チームケアの必要性 継続的ケアと総合的ケア、地域福祉の視点、事例に見る連携と役割分担
	サービス提供の基本視点 (3時間)	福祉サービスを提供するにあたっての基本視点を形成する	豊かな人間感 生活者としての援助対策の把握、生涯発達の支店、自己実現の視点等 他者理解と共感 自立支援 経済・身体的自立と精神的自立、役割意識とプライド、能動性・主体性 利用者の自己決定
老人保健福祉及び障害者福祉に係る制度及びサービスならびに社会保障制度に関する講義 (6時間)	老人福祉の制度とサービス (3時間)	介護保険制度を中心とした老人保健福祉の制度とサービスについて理解する。 ※介護保険を制度に関する内容を中心とした講義内容とすること。	老人保健福祉の背景と動向 介護保険制度の概要とサービスの理解 その他の老人保健福祉の制度とサービスの理解 医療・年金・生活保護制度・住宅施策等その他老人保健福祉に関連する制度、施策
	障害者(児)福祉の制度とサービス (3時間)	障害者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する。	障害者(児)福祉の背景と動向 身体障害者福祉の制度 知的障害者福祉の制度 児童福祉の制度 各福祉サービスの種類、内容とその役割 障害者(児)福祉に関する制度、施策
訪問介護に関する講義 (5時間)	ホームヘルプサービス概論 (3時間)	ホームヘルプサービスの役割と業務を理解する。 ※介護保険制度における運営基準等についての内容や考え方について含めること。	ホームヘルプサービスの社会的役割 ホームヘルプサービスの制度と業務内容 介護保険制度における運営基準等の理解 チーム運営方式の理解 24時間対応巡回型ホームヘルプサービスの理解 在宅介護支援センター等関係機関との連携 介護保険制度における居宅介護支援との連携 近隣・ボランティアとの連携 関連職種の基本知識
	ホームヘルパーの職業倫理 (2時間) ※面接指導2時間	ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する サービス提供における利用者の人権の尊重について理解する。 ※実際のサービス提供における人権の尊重について重点的項目として取り上げること。	ホームヘルプサービス業務において取るべき基本的態度 福祉業務従事者としての倫理 サービス提供における利用者の人権の尊重、プライバシーの保護等 ※事例を用いて理解を深めること 成年後見制度と権利擁護制度
老人及び障害者の疾病、障害等に関する講義 (14時間)	障害・疾病の理解 (8時間)	業務において直面する頻度の高い障害・疾病を医学的に理解する。 実践的視点で利用者の状態像を把握する。 援助の基本的な方向性を把握する。 ※介護保険法の対象となる特定疾病の概要を加えること。	加齢による老化 痴呆 脳卒中後遺症(肢体不自由、失語症等) 精神障害(精神分裂病を中心として) 脳性麻痺、脊髄損傷等による死体不自由 知的障害、自閉症、ダウン症 てんかん 視覚障害、聴覚障害 心機能障害等の内部障害 高血圧、糖尿病 介護保険法における特定疾病の概要 等
	高齢者、障害者(児)の心理 (3時間)	高齢者、障害者(児)の心理に対する理解を深め、心理的援助のあり方について把握する。	高齢者、障害者(児)の生活・行動と心理 高齢者、障害者(児)の人間関係 高齢者、障害者(児)とのコミュニケーション 活き活きとした生活に向けての心理的援助の実際
	高齢者、障害者(児)等の家族の理解 (3時間)	高齢者、障害者(児)等の家族に対する理解を深め、援助の目的と機能を理解する。	家族、世帯等の定義と内部構造 高齢者、障害者(児)の家族のストレス 家族に対するアセスメントの方法 家族とのコミュニケーションと援助 母子、父子家庭の理解
介護技術に関する講義 (11時間)	介護概論 (3時間)	介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する。 在宅介護の特徴とすすめ方を把握する。	介護の目的、機能と基本原則 介護ニーズと基本的対応 在宅介護におけるリハビリテーションの視点 リハビリテーション介護とは ターミナルケアの考え方 介護者の健康管理
	介護事例検討 (4時間) ※面接指導	生活者としての援助対象者	高齢者介護の特徴と留意点

	4時間	の介護事例を通して、適切な介護方法を学習する。	一人暮らしの高齢者、寝たきりの高齢者、痴呆性的高齢者、骨折等への注意、高齢者と性等 障害者介護の特徴と留意点 進行性障害への配慮、障害者夫婦への援助、精神障害への対応、視覚・聴覚障害への対応 等 障害児介護の特徴と留意点 思春期の特徴と対応、家族への対応、自傷・他害への対応 等
	住宅・福祉用具に関する知識 (4時間)	高齢者、障害者(児)にとっての快適な住宅について理解を深め、住宅の改造に関する知識を学習する。 福祉用具についての理解を深め、主な福祉用具の種類と機能を把握する。 ※介護保険制度における福祉用具貸与・購入、住宅改修の概要についてを加えること	生活行動と生活空間 在宅介護における住宅の役割と機能 快適な室内環境 防災等の安全管理 在宅改造のポイントと事例 福祉用具の役割と利用に関する知識 主な福祉用具の種類と機能・使用方法に関する知識 介護保険制度上の福祉用具貸与・購入費、住宅改修費の概要
家事援助の方法に関する講義 (4時間)	家事援助の方法 (4時間)	高齢者、障害者(児)への家事援助の目的と機能を理解し、その方法を学習する。 高齢者、障害者(児)への家事援助に必要な栄養、調理、被服の知識を学習する。	家事援助の目的、機能と基本原則 家事援助の方法 家事援助における自立支援 高齢者、障害者(児)と栄養、食生活のあり方 食品の保存・管理 ごみの始末、調理器具、食器等の衛生管理 高齢者、障害者(児)への調理技術(味付け、きざみ食等) 糖尿病、高血圧等に対応する特別食 高齢者、障害者(児)と被服
相談援助に関する講義 (4時間)	相談援助とケア計画の方法 (4時間)	ケアマネジメントの視点と方法を理解した上で、ホームヘルパーとして行う相談援助の方法及びケア計画の作成方法を学習する。 ※介護保険制度における居宅介護支援についての内容を含めること。	ケアマネジメントの視点 介護保険制度における居宅介護支援の理解 相談援助の目的、機能と基本原則 情報収集とニーズの発見 業務におけるケア計画の作成 目標の設定、計画の作成 援助内容の見直しの視点と手続
医学等の関連する領域の基礎的な知識に関する講義(8時間)	医学の基礎知識 I (3時間)	高齢者、障害者(児)の在宅生活援助に役立つ知識を中心に家庭の医学等の基礎知識を学習する。	日常的な疾患の基礎知識と予防・対処方法 風邪、発熱、腹痛、火傷、骨折、食中毒等 ※バイタルサインの発見方法を含むこと。 感染症の理解と予防 MRSA、B型肝炎、疥癬、梅毒等
	在宅看護の基礎知識 I (3時間)	高齢者、障害者(児)の在宅看護の基礎知識を学習する。	在宅看護方法の理解 身体を観察 観察の視点、体温測定、血圧測定等 薬の飲ませ方と保管 特別な処置 吸引、吸入、浣腸、排便等
	リハビリテーション医療の基礎知識 (2時間)	理学療法士と作業療法士を中心にリハビリテーションの基礎知識を学習する。	リハビリテーション医療の意義と役割 リハビリテーション医療の概要 理学療法、作業療法、言語療法等 訪問リハビリテーションのスタッフとの連携の進め方 リハビリテーション介護とは

2 演習 42時間(通学) ロールプレイ等については、見学のみで修了しないこと。			
科目	教科名	目的	学習内容
福祉サービスを提供する際の基本的な態度に関する演習(4時間)	共感的理解と基本的態度の形成(4時間)	サービスの利用者の立場にたった理解とサービス提供者としての基本的態度を形成する。	ロールプレイ等の方法によりサービス提供場面の演習を通して、サービス利用者に対する共感的理解と基本的態度を形成する。 訪問・退出時の挨拶 傾聴的態度、信頼関係の形成 物の処分・移動における言葉かけ 銀行入金代行業務や買物業務時の注意点(レシートの取得等) できないことの拒否の仕方 助言の仕方 痴呆性高齢者等とのコミュニケーション ※親密さと無礼の境目(「キクちゃん」等の幼児語使用)等にも留意して演習すること。
介護技術に関する演習(30時間)	基本介護技術(30時間) 【使用備品】 ・介護ベッド ・車椅子 ・ポータブルトイレ ・杖 ・体温計、血圧計 ・尿器、便器等	食事、排泄、入浴移動、移乗、その他基本的な介護技術を修得する。	食事の介護 排泄・尿失禁の介護 衣服着脱の介護 入浴の介護 体位・姿勢交換の介護(座位保持、褥瘡への対応を含む。) 肢体不自由者の歩行の介護 車椅子への移乗等の介護 車椅子等での移動の介護 ベットメイキングの方法 身体の清潔(清拭、洗髪、口腔ケア等)の方法 緊急時対応法(骨折、火傷、てんかん発作、化学物質による中毒等)等 ※姿勢による食事の喉の通り方を体験するため弁当等を用いて実際に食事介護する等、可能な限り実践的な講習とすること。
訪問介護計画の作成等に関する演習(5時間)	ケア計画の作成と記録、報告の技術(5時間)	ホームヘルパーとしてのケア計画の作成技術を学習する。 業務及び事例の記録の方法と報告の仕方等を学習する。	ロールプレイ、VTR等により情報が提供された想定事例に対して以下の項目を学習すること サービス提供プランの想定 ホームヘルパーとしての援助目標の設定とケア計画の作成 記録の書き方 上司への報告・相談の仕方(カンファレンスでの報告の仕方を含む。) 事例報告のまとめ方 ※記録の書き方については、いくつかの適切と思われる記録様式(用紙)を紹介すること。 ※事例報告のまとめ方については、いくつかの既存の事例報告を紹介し、討論形式で学習すること。
レクリエーションに関する演習(3時間)	レクリエーション体験学習(3時間)	高齢者、障害者(児)を対象とするレクリエーションについて体験的に理解する。	レクリエーションの視点とプログラム 高齢者、障害者(児)を対象とするレクリエーションの体験学習

【指導体制】

全国で介護サービスを運営し、介護最前線からの情報を講座に反映。介護に精通した講師が、より実践的に指導します。

3 実習 84時間			
科目	教科名	目的	学習内容
介護実習(24時間)	介護実習(16時間)	利用者とのコミュニケーションのとり方を学ぶとともに、介護技術を中心とする援助能力を高める。	講義、実技講習の各内容を老人保健・福祉施設において実践することにより介護技術を中心とする援助能力を高める。
	ホームヘルプサービス同行訪問(8時間)	ホームヘルプサービスの進め方や援助技術を体験的に習得する。	ホームヘルプサービス同行訪問により、業務を体験的に理解するとともに援助能力を高める。
老人デイサービスセンター等のサービス提供現場の見学(6時間)	在宅サービス提供現場見学	ホームヘルプサービスとの連携のあり方等在宅生活者への総合的支援について学習する。	在宅サービスの提供現場の見学を通して、そのサービス及び機関の役割・機能を把握する。ホームヘルプサービスとの連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方について学習する。

通信: 58時間相当

通学: 42時間+面接指導6時間

実習: 30時間